

市民と共に視察報告書

○視察日程

令和5年1月16日～1月17日

○視察先

(1) 愛知県新城市

「木造建築の校舎について」

現地視察：新城市立黄柳川小学校

(2) 大阪府門真市

「子どもの居場所（子ども食堂・宿題カフェ）づくりについて」

「公民連携の子どもの居場所づくりについて」

現地視察：子ども LOBBY

○視察報告

(1) 愛知県新城市「木造建築の校舎について」

愛知県新城市 新城市立黄柳川小学校を訪問し、主に木造校舎についての視察並びに新城教育委員会の皆様・校長先生・教頭先生より説明を受けた。

新城市は、平成17年10月に新城市・鳳来町・作手村が対等合併をして生まれており、黄柳川小学校は、旧鳳来町に位置し、旧鳳来町の山吉田地区の2校が統合して生まれた全校70名の小規模小学校である。統合の準備段階から、「新設小学校準備会」を発足させ、基本設計から担当設計事務所が参加し、地元の皆様が様々な意見を出し合った結果、地元木材を利用した木造校舎となり、まちの思いがしっかりと詰まった小学校が完成していた。木造校舎は、入ると木の匂いがし、そこで学ぶ子供たちものびのびと勉強・運動に励んでいたように感じた。

建築にあたってのコスト面は、想像していたものよりは高くなく、鉄筋コンクリート校舎よりは低コストで建設がされている。問題点として、外壁等が経年劣化し、定期的な補修が必要であること、天井が高く作られていることから空調にかかるコストが高くなることが挙げられる。

本市においても、学校の再編計画の中で、新設小学校が必要になってくると思われるが、特色ある学校として検討をしてみる価値はあるのではないかと感じた。

(2) 大阪府門真市

「子どもの居場所（子ども食堂・宿題カフェ）づくりについて」

「公民連携の子どもの居場所づくりについて」

大阪府門真市 京阪電鉄 門真市駅前にある公民連携子ども居場所施設「子ども LOBBY」を訪問し、門真市子ども部こども政策課の職員の皆様から説明を受けた。門真市は大手電気メーカーの工場進出により人口が増え、集合住宅が多くできた企業城下町であるが、働く人の変化から市外への転出が増え、人口減少により財政状況も厳しい状況にあるとの事であった。そんな中、子どもの貧困率調査を大阪府で行なった時、門真市が大阪府の平均値より高いことが判明し、子どもの貧困対策として、子ども未来応援ネットワーク事業を立ち上げ平成 30 年 7 月より実施している。事業の概要としては、一般市民の方から「子ども未来応援団」（現在 約 1,600 名）を募集し、応援団の方から子どもたちの異変などの情報をあげて頂き、その情報を教師 OB とケースワーカー・市職員で構成する「子ども未来応援チーム」でケース会議を実施し、情報の精査を行っている。その精査の結果により、対象の子どもに対応した支援を行う事業である。この事業を進めていく中で、子どもの居場所づくりが必要となり、京阪門真市駅前の商業施設内に、「子ども LOBBY」を令和 3 年 6 月に設置している。公民連携という事で、設置場所の駅前商業施設運営会社から無償で提供をされており、施設内の家具や電気製品なども支援企業からの提供でできしており、門真市の負担が少ない施設になっていた。現状、施設では放課後の子どもの居場所だけでなく、不登校の子どもたちの居場所、子どもたちの職業体験の場になっており、子どもたちの拠り所になっているように感じた。子育て世代に選ばれるまちを目指している本市も、是非参考にできる施設であると感じた。